春きぶき

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学　広報誌

2009年　12月発行　No.67

学園祭での手話コーラス（撮影：河邉 聡子）

特　集　**川崎学園祭**　－学科紹介－

- 公開講座
- 授業・実習風景⑫
- ワッペン授与式 他
- 教員の活動紹介⑰／先輩から後輩へ⑰
- 上海師生訪問団／中国からニーハオ
- eラーニング講習会／サークル紹介②
- インフォメーション

第35回川崎学園祭 －学科紹介－

10月9日（土）・10日（日）、第35回川崎学園祭が開催されました。今回の統一テーマは、『ひだまり』です。ひだまりとは、「光が射して暖かい場所」という意味です。学園祭を創りあげる一人ひとりの力が光となり、多くの光で全体を照らすことで、心の安らぎや心の健康に結びついて欲しい、そんな願いを込めて付けられました。開催の2日間、このテーマにふさわしい秋晴れの中、学生たちはさまざまな光となり学園祭を大いに盛り上げ楽しんでいました。

例年、学園祭では、模擬店・仮装行列・舞台イベント・学科紹介・オープンキャンパスなどさまざまな催しが開催されています。いずれも学友会実行委員が中心となって、多くの方々に楽しんでいただけるように企画・準備を行っています。その中でも川崎医療短期大学を多くの方々に知っていただくために開催されているのが**学科紹介**です。しかし、模擬店など屋外の会場に比べると目を引きにくく、多くの方々に来場していただいてはいるのですが、少し認知度が低いようです。そこで、今回は、学園祭の中でもこの学科紹介にスポットを当て、各学科の担当教員や学生が開催内容をご紹介します。

学科紹介では、各学科の特色を分かりやすく伝えるための展示や体験が中心となります。学園祭開催期間中、本学体育館1階の講義室を6つのブースに区切り会場としています。限られたスペースの中で各学科の学生たちは、学科の特長が多くの来場者へ伝わるように工夫を凝らして展示を行っています。また、開催当日は、学生自身が自分たちの学生生活の様子も交えながら来場者へわかりやすく説明しています。

看護科

▼血圧測定
来客者の血圧を測定したり、高血圧の原因について説明しています。

▲育児赤ちゃん
赤ちゃんを実際に抱いてもらったりお世話を体験してもらいました。

▲妊婦体験
高校生へ声をかけながら体験してもらいました。

私たちは、看護に興味を持ってもらうというテーマで学科紹介に向けて準備をしました。看護科は「厳しい」「きつい」などのイメージがあります。しかし、つらい中にも楽しみや喜び、達成感や人との触れ合いがあるということを伝えたいと、みんなで話し合い、資料や掲示物、体験などを決めていきました。

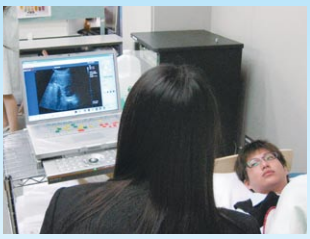
まず、実習や年間行事のパネルに説明を加え掲示しました。次に、妊婦体験、育児赤ちゃんを準備しました。妊婦体験や赤ちゃんの世話を体験することは、妊婦さんの大変さや、赤ちゃんのかわいらしさを感じ看護へ興味をもってもらえるのではないかと思ったからです。体験した人から「本当に体が重い」「赤ちゃんかわいい！」など歓声があがりました。

参加者の中には、本学の看護科に受験を決めている高校生もいて、後輩になるかと思うと説明に力が入りました。

この学科紹介は、二年生が主体となって行います。初めてで戸惑いやつまずきもありましたが、たくさんの先生方や他の学年の協力もあり無事学科紹介を終えることができ、大変でしたが充実感を得ることができました。

（二年　高田 彩加）

臨床検査科



▲超音波検査
初めておなかのなかを見た人も多いのでは。

▲血液型の検査
学生に教えてもらいピペットを上手に扱っています。

▼ブース全体の様子
高校生や一般の方も興味を持って検査を体験されました。

▲教員による説明の様子
高校生が熱心に耳を傾けています。

病院で検査を実施することは誰もが知っていますが、検査のプロである「臨床検査技師」の存在は意外と知られていないのが現状です。

そこで今年は「臨床検査のあれこれ」というテーマをもとに、七月から本学科の三年生を中心に準備作業を行い、学園祭を迎えるに至りました。学園祭初日、本学科志望の高校生が一番に来場されたのを始め、二日間を通して例年になく大勢の高校生や一般の方にお越しいただきました。中には卒業生の姿もみられ、恩師との再会に大学時代の思い出話や近況報告に会話が弾み、ミニ同窓会のような一幕もみられました。学生は慣れない説明に苦労しながらも来場される方一人ひとりへ丁寧に説明をし、一生懸命取り組んでいる姿はなんとも微笑ましい光景でした。

今回の学科紹介を通して、一人でも多くの方に臨床検査の魅力をお伝えすることができていることを願いつつ、協力していただいた教員、ボランティア学生の皆さんに心から感謝します。

（岸本 光代）

放射線技術科

▼ブース内の様子
来場者への対応は学生が行い、ブース内の展示物の説明や質問などに答えました。

▲実物大パネルの作成風景
今回新たな試みとして、川崎医科大学附属病院に設置されているPET/CTの実物大パネルを作成しました。

放射線技術科のブースへは、高校生とその保護者の方を中心に、二日間で延べ約六十人が来場されました。

ブース内では、診療放射線技師の業務内容や、三年間の主な行事・カリキュラムなどをパネルで紹介しました。今回は、実物大のPET／CT装置のパネルも展示し、例年より迫力のある紹介を行いました。また、放射線を計測する装置（サーベイメータ）を使った微弱な放射線の計測や、ステレオ撮影したX線画像を専用の観察器で覗き、立体視による3D画像（奥行きを感じる画像）を観察する体験型の催しも行いました。その他、X線撮影に使用する器具の展示や、就職資料・教科書などを自由に閲覧できるようにしました。

ブース内の催しとは別に、希望者には、放射線技術科の実験室の見学や簡単な体験学習を行う「学内見学」を実施しました（二日間で五十五名が参加）。また、初日には、川崎医科大学附属病院の中央放射線部で、最新の医療機器の見学とその説明を行う「病院見学」も開催しました（二十二人が参加）。

例年以上の来場者があり、盛況な学科紹介となりました。

（天野　貴司）

▲病院見学の様子
検査や治療目的以外では普段立ち入らないため、非常に好評な催しの一つです。

介護福祉科

▼アイデア介護用品の展示
写真入りの説明文で展示しています。
同じ用途でもさまざまなものがあります。

▲会場の様子
多くの方々が介護用品を実際に手に取って体験していました。また、在学生の説明を熱心に聞いていました。

介護福祉科は、一年生が中心となり、学科紹介を行います。展示の中心は学生製作のパネルです。今年の内容は、カリキュラムや講義の内容の紹介、ある在学生の学生生活の様子、介護用品の紹介などです。

その中でも介護用品の紹介は、今年初めての試みで、在学生が考案したアイデア介護用品に説明を加え展示しました。すでに市場には、多くの介護用品が販売されていますが、高価なものが多く、利用者の多様なニーズに応えることが難しいのが現状です。そこで、学生たちは、身近にあるものをリサイクルするなどして作成しました。また展示にもひと工夫加え、同じような用途で一般に市販しているものと比較しながら展示しました。

その他、車いすの展示・体験も行いました。中でも、床まで座面が移動するタイプが特に関心が高く、多くの方が驚いた表情で体験されていました。

学園祭の二日間、多くの方に来場していただきました。来場者へは、学生が説明を行いますが、自分自身が経験している学生生活の様子を交えながら、最初は慣れない表現で緊張しながら紹介していました。高校生は、年齢の近い学生からの説明に終始楽しそうでした。

（辻　真美）

▲車イス体験
床まで座面が移動する車いすを実際に試乗していただきました。

医療保育科

▼カプラの様子
大きなキリンを製作中。

▲事前準備の様子
保育教材等の配置や風船などでの飾り付けに苦心しました。

医療保育における「保育」の視点から、本学科のブースは恒例の「くつろぎの空間」を創りました。毎年、訪れてくださった高校生やその保護者はもちろん、教職員の家族にもゆっくりとした時間を過ごしていただいています。とはいえ、学生は準備に奮闘しました。大きなパネルに紙でできた動物や食べ物などを貼ったり、歌とともに物語を展開するパネルシアターを展示したり、カプラ（平板の積み木）で見本の「家」を作成したり、色とりどりの風船を飾ったりして、明るく楽しい空間に仕上げました。

そして学園祭の当日、訪れてくださった方には保育を模擬体験していただきました。あるお子さんから「（カプラで）キリン作って」とのリクエストがあり、学生は軽い気持ちで取り組み始めました。しかし、作るに従って「もっと大きいのを」という思いが強くなったようで、遂に、そのお子さんも学生もすっかり集中して、大人の身長ほどある大きなキリンを造り上げました。緊張が解けた瞬間、たくさんの笑顔が弾けました。来年はどのような空間になるのか、今から楽しみです。

（中井 靖）

▲カプラの作品
訪れたお子さんとカプラをする在学生。

学園祭実行委員会

▲今年の学園祭パンフレットをもって

無事学園祭も終了し笑顔いっぱいの学園祭実行委員会のメンバー

▼ゴミの分別もしっかりと

学科紹介を担当して

学科紹介リーダー
放射線技術科二年
山縣 有紗

まずは、今年度の学園祭での学科紹介を無事に終えられたことが何よりでした。今年は準備の段階から変更が多く、また、私自身もこのパートを担当するのが初めてだったので戸惑うことも多かったです。しかし、各学科の担当者や同じ学科紹介を担当した岡田理沙さん（介護福祉科一年）、昨年度学科紹介を担当していた古川寛子先輩（臨床検査科三年）、学友会のメンバーの協力もあってやり遂げることができました。

開催中は多少の問題もあったものの、学生だけでなく先生方の協力等もあり、学園祭最終日まで進めていくことができました。学園祭中、自身の管理不足で体調を崩してしまいましたが、それでも無事に成功させることができたのは、周囲の人の協力があったからこそだと思います。

今回の経験から、改めて周りと協力していくことや人との関わりの大切さが分かりました。来年は今年の反省を踏まえて、さらによいものになることを期待しています。また、私もこの経験をこれからの人生の糧にしていきたいと思います。

平成二十一年度　第二回公開講座

テーマ　人に優しい優れモノ　～超音波の医療応用～

臨床検査科　教授　畠　二郎

平成二十一年度第二回公開講座が臨床検査科の主催で八月二十二日（土）十時から九十分にわたって開催されました。今回のテーマは、畠二郎教授による〝人にやさしい優れモノ～超音波の医療応用～〟でした。当日は、夏の蒸し暑さを肌で感じる日でしたが、参加者は午前九時頃から集まり始め、超音波機器などに興味津々な様子で、関係者と楽しく語り合う姿も見られました。

まず、臨床検査科主任 通山 薫教授による、畠二郎教授の紹介から始まりました。講演は、超音波の基礎的な説明がなされた後、超音波が使用されるようになった背景や、自然界での動物の交信に利用されている様子などが紹介されました。畠教授の分かりやすく、ウイットに富んだ語り口は、聴衆である市民の方々や本学教職員、学生にとても好評でした。また、医療で応用されている単純X線写真、X線CT、MRI、最新のPETなどの機器についても紹介されました。また、健康診断などで見つかる肝臓、胆嚢（のう）胞、脂肪肝などの疾患についても説明され、解りやすい画像を用いて、腫瘍（しゅよう）の判別なども丁寧に解説されました。この講演によって、超音波検査は痛みを伴わず、ほぼ全身の検査が可能、細部までリアルタイムに見える、コストが低いなど、便利な検査法であることを参加者は学んだと思います。講演後には実際の超音波検査と解説が行われ、公開講座は終了しました。

▲質疑応答も熱心に行われました。

▲講座の様子

参加者は、一般二十九名（高校生三名を含む）、本学教職員・学生五十六名で合計八十五名でした。講座後のアンケート（回収二十四枚）では「検診を受けた後の判断や対処法について参考になった」「医療機関での不安が少し解消された」「治療にも応用されていることを知った」「はじめて知ることが多く楽しかった」など好評をいただいています。一般参加者の年代内訳は六十代（十人）が最も多く、十～八十代の各世代が数名でした。公開講座に初めて参加の方は十四名で、今までに他の公開講座を受講されたことがある方は十名でした。一般の参加者の方々に有益で、楽しい公開講座が開催されたことを報告いたします。

（臨床検査科 土井 和子）

平成二十一年度　第三回公開講座

テーマ　性と健康　～自分で選ぶ自分らしさ～

看護科　教授　登喜 玲子 他

十月十日（土）「性と健康～自分で選ぶ自分らしさ～」をテーマに、公開講座が開催されました。

最初に、看護科の登喜玲子より「あなたにとっての性とは…」という投げかけを行い、自分らしく生きることが人間にとっての性であり、人が愛し合うことは人間の性の特質であることを説明しました。

次に、看護科の松本明美教授から、性感染症の最近の動向と予防について正しい知識をもつことの大切さの講演がありました。さらに、最新のトピックスである子宮がんをワクチンで予防できるHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンについての紹介がありました。

▲講座の様子

▲熱心に聞き入る参加者

後半は、「デートDV防止プロジェクトおかやま」で活動している子育て応援隊kara 2の為清淑子さんと山下明美さんのお二人から「デートDV」（DVとは、ドメスティック バイオレンスの略称であり、身近な男性から女性が受ける暴力のこと）について、実際のDV被害者のメールを一部紹介していただきました。そして、暴力のない安心した関係を築くためには、「自分らしくあること」や「対等の関係作り」が大切であることが強調されました。

参加された百七十名の方からは「自分では調べきれないような話を聞くことができて興味深かった」「私は高齢者ですが、いい勉強になった」など、たくさんの感想が寄せられ、性は年齢に関係なく大切であると、わたしたちも改めて実感しました。

なお、当初予定していた日下講師の都合により、急遽 kara2 のお二人に講演をお願いしました。

（看護科 登喜 玲子）

授業・実習風景⑫

医療保育科

医療保育科
助教 入江 慶太

小児病棟実習
（病児保育コース）

医療保育科では、病児保育コース選択の三年生を対象に、十日間の小児病棟実習を行います。今年度も川崎医科大学附属病院小児医療センターを含む全国八カ所で実習を行いました。

小児病棟実習の目標は「小児病棟の内容と機能についての理解」「入院児への保育の必要性の理解と保育技術の習得」「入院児とその家族への援助方法の理解」「小児医療チームの理解」の四つです。病気を持って入院してくる子どもとその家族のQOLを向上させることが出来る医療に携わる保育者の養成を目指して、実習は展開されます。実習内容も入院児の成長・発達に合わせた遊びの提供とその保護者との関わりを中心に、入院児の情報収集、乳児健診・院内学級・医師の回診の見学、小児科外来の待合での遊びの提供など、多岐に渡っています。

病院をフィールドにした実習は学生にとって初めての経験です。小児病棟のスタッフの実習に対する理解と指導に支えられ、毎年、学生は充実した顔で実習最終日を迎えています。

実習先の保育士との反省会の様子

川崎医科大学附属病院小児医療センターにて実習した学生の感想をご紹介します。

【内村 友希】

乳児健診の見学では、医師や看護師、管理栄養士、理学療法士がチームを組み、それぞれの専門的な視点から子どもと保護者に関わることを学びました。保護者の不安に対して、スタッフの方が分かりやすく説明し、「大丈夫ですよ」と言われていたので保護者も納得している様子でした。

【佐伯 衣里香】

医療の現場で保育を行うことが最初はとても不安でした。しかし、実際に保育者が医療チームの中で動かれている姿を見ることができ、指導もしていただけたので、医療における保育者の役割を理解することが出来ました。保育者は病気を治すことは出来ないですが、遊びを通して心のケアをすることが出来ることも学びました。また、不安そうだった入院児が、日に日に元気になっていき、笑顔で退院していく姿を見て、とても嬉しかったです。

【矢吹 麻衣】

子どもは生活の中心が遊びなので、その遊びを通した成長・発達を促す専門的な知識を持つ保育者の必要性を感じました。院内学級の見学では、それぞれの子どもの学習の進度に合わせた授業が行われており、時間配分もその子どもに合わせたものでした。院内学級の仕事内容に触れることが出来たので、今度は入院児にとって院内学級が果たす役割を考えていきたいと思いました。

地球温暖化対策ワーキンググループだより

川崎エコプロジェクト

NO.7

倉敷市のペットボトルの捨て方

倉敷市では、平成21年10月から家庭ごみの減量・資源化を促進するため、「ペットボトル」を資源ごみとして扱っています。

本学でも毎日多量のペットボトルが回収されていますが、下図に従ってきちんと捨てていますか?一人ひとりが強い意識を持って行動し、環境保全に協力し、住みよい学園づくりに努めましょう。

★ラベルは燃えるゴミへ★
★キャップは備え付けの容器へ★

11月11日は“介護の日”

「11月11日は介護の日」これを記念するイベントが11月7日（土）イトーヨーカドー岡山店で開催されました。これは岡山県介護福祉士会と岡山県下8つの介護福祉士養成校が主催し、介護を身近なものに感じていただき、現在、人材が不足している介護福祉士を少しでも多くの方に知っていただくことを目的としています。各養成校が太鼓演奏、リラクゼーションマッサージやリハビリメークなど様々なイベントを行いました。本学からは、介護福祉科の学生10名と教員で、介護予防運動と手話歌の「世界に一つだけの花」など3曲を披露しました。日頃見慣れない手話歌では、通りを歩く方々が一時足を止め興味深く見てくださいました。

実習に向けて決意新たに

臨床検査科 ワッペン授与式

九月二十四日（木）、臨床検査科ワッペン授与式が挙行され、通山薫主任教授から二年生（五十五名）一人ひとりに臨床検査科のシンボルであるワッペンが授与されました。代表学生である杉原純さんの先導により「臨床検査科授与式誓詞」を授章学生全員で力強く声高らかに読み上げました。激励の言葉として、今城吉成学長から病院実習の重要性、医療人としての心構えの大切さを話していただき、通山先生から元気・やる気・根気という三つの「気」について話していただきました。

授与風景

臨床検査技師を目指す彼らが、一歩ずつ確実に成長していく姿を見ると本当にうれしく思い、〝羽ばたけ、若きいのち、夢に向かって前進せよ〟と心からエールを送ります。

学生の声

「今までの努力がワッペンという形で示され、うれしくて泣きそうになるとともに、病院実習を今まで以上に緊張感を持ってがんばろうと思いました」

「今日ワッペンを受けとり、一ステップ上がったような気がします。一年前とは違い、今日は、身にしみて去年の先輩方の心境を感じ、やっとここまで辿り着いたような気持ちです。これからの病院実習、不安な気持ちもありますが、臨床検査科の理念を実行できるような技師になるため、班の仲間と協力しながら一つひとつを確実にクリアしていきたいと思います」

ワッペンを授与され、堂々と胸をはる2年生

医療保育科　実習開始式

本学科の実習は5種類あります。保育士資格のための保育所実習と施設実習、幼稚園教諭免許のための幼稚園実習、さらに本学科独自の小児病棟実習と発達障害児保育実習です。これらの開始にあたり、6月16日（火）に本学科2年生62名は実習開始式に臨みました。学生代表による力強い宣誓があり、翌日から始まる保育所実習への意気込みが会場を満たしました。実習を乗り越えるごとにたくましさを増す姿を見守っていきたいです。

名前を呼ばれ起立する学生たち

放射線技術科　授章式

9月25日（金）に挙行されました。今城吉成学長からの式辞に続き、村中明主任教授から臨床実習開始を許可する証としてワッペンが2年生48名に授与されました。また、「激励の言葉」を卒業生の河野雅俊氏（心臓病センター榊原病院）から頂き、そして、同病院の心臓血管外科の津島義正先生（外科・救急部長）から「心肺蘇生法―科学的背景・日本の現状・講習の最前線―」と題した記念講演を行って頂きました。

左肩にワッペンを授与された授章生たち

看護科　戴帽・授章式

「われはここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん・・・」（ナイチンゲール誓詞）を、看護の灯火（ともしび）を手に掲げ、唱和しました。これは、看護科2年生119名（女子109名、男子10名）の戴帽・授章式の一コマです。式典は、10月29日（木）に開催され、主任、副主任から、ナースキャップ（女子）と学章（男子）が授与されました。続いて、今城吉成学長、藤原恭子岡山県看護協会会長、卒業生の太田優美氏より、激励の言葉をいただきました。最後に、代表学生の金田直子さんが専門職としての誇りと責任感を表明し、看護の道を歩む決意を新たにしました。

看護の心をナイチンゲールからもらいます

統合医学・医療で生活習慣病予防

教員の活動紹介⑰　放射線技術科 教授　西村 明久

三年前に本学で実施した公開講座がきっかけで、社会貢献の一環として、「統合医学・医療で生活習慣病予防」と題した講演会活動をしています。「統合医学・医療」とは、手術や医薬品投与中心の西洋医学に漢方、マッサージ、健康食品などを組み合わせ、人間が本来持っている自然治癒力をフル活動することで病気を治す医学・医療のことを指します。最近では、メディアでも取り上げられるようになり、増える一方の国民医療費の抑制にも役立つと期待されています。

五年前、「米国がん学会」が〝生活習慣病予防効果食品〟（デザイナーフーズプログラム―ピラミッド型形式）を発表しました。この中で、私の研究テーマであり、学位論文のテーマでもあった「がんの放射線治療への応用～放射線防護剤・増感剤の開発研究～」で使用した抗酸化食品成分である含硫アミノ酸の多く含まれている〝たまねぎ・ニンニク系〟が最上位になっています。私の研究は、放射線によるガン治療にこの含硫アミノ酸を活用させるものです。〝たまねぎ・ニンニク系〟は、生活習慣病予防にも非常に効果が期待できることから、食事療法としても重要視され、白羽の矢が立ったようです。

「生活習慣病予防」には、食事療法、運動療法、心理療法の三大因子があります。ですから、講演では、運動療法・心理療法として上海気功音楽（シンセサイザー）体操も行っています。

現在、岡山県では「健康岡山21～21世紀における県民健康づくり運動～」を実施しています。そのため、私のところには、岡山市や倉敷市など公共機関からの依頼が後を絶ちません。皆さんも自然治癒力をフルに使った健康づくりに関心をもってみてはいかがでしょうか。

これまでの主な開催施設

○一般会場での開催
- 岡山ホテルグランヴィア
- 倉敷アイビースクエア
- 岡山NTTクレドビル
- 岡山ピュアリティーまきび
- 倉敷市民会館など

○公民館での開催
- 倉敷公民館
- 児島公民館
- 庄公民館など

総計2、600名が参加

「川崎のつながり」

先輩から後輩へ⑰　鳥取大学医学部附属病院 検査部　釜山 詳朗
（臨床検査科　28期生）

私は、平成十五年三月に臨床検査科を卒業し、現在、鳥取大学医学部附属病院検査部に勤務しています。職場には私を含めて川崎医療短期大学の卒業生が三名います。卒業後の約三年間は臨床検査技師の仕事から離れていましたが、その後、臨床検査技師の道に戻り、現在の職場に勤務して四年目です。

今年の三月までは生化学・免疫血清部門に配属されていましたが、四月から血液一般部門に異動となり、現在は、採血、凝固検査、血液一般検査などの業務を行っています。その中でも採血は、一日平均三百人以上の患者様が採血室に来られるので、非常に忙しいです。現在はかなり慣れましたが、異動当初は苦労の連続でした。

話は変わりますが、私は、学会発表で中国四国学会や全国学会に参加する機会が多くあります。その際に、同級生、短大の先生方、川崎医大の技師の方と出会う機会が多くあり、近況を話すなどして楽しい時間を過ごしています。また、先日の全国学会では、現在は短大の教員として活躍している同級生に出会い、良い刺激を受けました。

鳥取支部同窓会の様子

昨年には鳥取県内で働いている同級生と協力して、鳥取支部の同窓会を開催しました。同窓会の準備をしていると、鳥取県内に川崎出身の方が多くいらっしゃることが分かりました。同窓会では、先輩方の貴重な話を聞くことができたので、とても良い機会となりました。このような会がまた開催できたらと思います。

最後になりますが、卒業生および在学生のみなさん、卒業後も同級生をはじめとして、川崎のつながりを大切にして下さい。縁は時として大きな力を生み出してくれると思います。また、何か困ったことや悩んでいることなどがあれば短大の先生方を訪ねてみるのも良いかもしれませんよ。

上海師生訪問団

看護科二年
久保 和貴子

八月十七日から二十一日まで第十期師生訪問団として、看護科二年生九名及び引率教員二名の計十一名が参加しました。

訪問中は、上海職工医学院の先生方や案内学生から熱烈な歓迎を受け感激しました。そして、朝早くから夜遅くまでいろいろな観光地を案内していただき、中国の歴史や文化に触れることができました。

また、上海の学生たちと交流を深めていく中で日本との大きな違いも感じました。それは、日本の医療は患者さんの精神的な面も考慮して治療にあたりますが、上海では精神面よりも技術面に力を入れていることです。学校の中にも手術室や分娩室、ナースステーションまでもがあり、実際の病院に近い構造になっていて設備がとても整っていました。このような違いを感じながらも、国や言語が違っても、同じ医療従事者を目指す学生と交流したり、病院を見学したりすることで、より看護に興味をもつことができ、これからの勉強に役立つことが多くありました。

今回の訪問では貴重な体験ができ、充実した五日間を過ごすことができました。お世話になった皆様に深く感謝いたします。

▲上海万博のマスコット「海宝」の前でピース

▲説明を受けながら学校内を見学

薬物・カルトの勧誘に注意!!

薬物（大麻や覚せい剤など）の所持・使用や、カルトと呼ばれる団体による活動が社会問題となっています。これらは巧妙な手口で近づき、そのうち抜け出せなくなることが心配されます。皆さんの生活や健康に支障をきたすだけでなく、一生をも台無しにしてしまいます。

少しでも怪しいと思ったらきっぱりと断り、心配なことがあれば周りに相談しましょう。

相談窓口
■各学科クラス担任
■庶務課（086-464-1032）

相談内容は厳守します！

中国からニーハオ!!

10月5日に、中華人民共和国上海市から3名の方が来日されました。王さんは、来年3月までの間、研究生として栄養学や日本の文化について学びます。殷さんと羅さんは、来年4月に看護科へ入学予定で、現在、聴講生として日本語の勉強に励んでいます。

◆王力強
【経歴】上海職工医学院（教員）
【趣味】スポーツ、音楽鑑賞
【メッセージ】緑が多く、環境がとてもよいと思います。教職員の皆さんはとても親切で、色々お世話をしていただいています。また、仕事のペースが速いと感じています。在留は半年ですが、多くの知識を吸収し、色々な人と交流を深め、成果を上げ楽しい半年間にしたいです。

◆殷艶
【経歴】上海市衛生学校
【趣味】読書、スポーツ、料理
【メッセージ】日本は初めてですから、何もかもが新鮮です。上海の賑やかさと違い、ここは静かで良いところだと思います。料理もおいしいです。ここが好きになりました。日本の先進の知識を身につけ、帰国後、上海で活かしたいです。

◆羅欣瑋
【経歴】上海市衛生学校
【趣味】刺繍、旅行
【メッセージ】日本は初めてです。倉敷市は自然が多く広いです。先生や先輩に、親切に色々教えてもらい、ここの生活にだんだん慣れてきました。今は聴講生ですから学ぶこともいっぱいですが、すぐに慣れると思います。これから、学問の基本を身に付け、新しい知識を学び、優秀な看護師を目指して勉強します。3年半、頑張ります。

eラーニング講習会

近年の大学生の学力水準の多様化に対応すべく、本学ではICT（Information and Communication Technology）を利用した教育の一環として、eラーニングの全学的な導入を目指しています。来年度の本格的な稼動に向け、eラーニング専門委員会を設立し、七月十六日（木）にFD・SD講習会で、eラーニング専門委員の板谷道信教授、岸本光代講師、名木田恵理子教授が、教職員のeラーニングの知識やスキル向上を目的とした講演会を開催しました。

この講演会を受けて、九月四日（金）、八日（火）には教職員を対象にeラーニングシステムであるMoodleについての講習会が開かれ、併せて約七十名の教員が参加しました。eラーニング専門委員の岸本講師と重田助教の指導による、Moodleの基本的な操作の方法から始まり、講義資料の提示方法や小テスト作成、課題の提出方法などの解説がありました。参加した教員はそれぞれの科目で使用する講義データをアップデートしたり、実際に小テストを作成したりするなど、実践的利用法を習得すべく熱心に取り組みました。講習会後には参加した教員の多くから「理解できた」「いろいろな機能を使ってみたい」などの声を聞くことができました。

本学では、教職員一人ひとりのITの理解とスキルの向上が必須と考え、今後もeラーニング専門委員会を中心に支援体制を整え、eラーニングを教育に効果的に取り入れていく予定です。

サークル紹介②

ソフトボール部

私たちソフトボール部は10月11日、岡山県臨床検査技師会主催のソフトボール大会に参加しました。この大会は毎年、岡山県内の臨床検査技師や、各大学の臨床検査科の学生が集まり開催される大会です。昨年度、私たち川短チームは惜しくも決勝戦で倉敷中央病院に敗れ、その屈辱を果たすべく練習を積んできました。

今大会には、3年生中心のAチーム、2年生中心のBチームの2チームが参加しました。Aチームは、県北連合、倉敷芸術科学大学Cチームを相手に奮闘しましたが、一歩及ばず予選リーグ敗退でした。一方、Bチームは倉敷芸術科学大学Aチームに勝利し、準々決勝へ駒を進めましたが、岡山検査センターに敗れ、結局、倉敷中央病院の8連覇という形で幕を閉じました。

今大会では悲願の優勝を達成することはできませんでしたが、多くの技師さんや他大学の学生たちと交流できたことや、チームが一丸となり仲間を応援したことは、これから社会に出る私たちにとってとても大切な経験となりました。是非、皆さんも一緒に楽しんでみませんか?

手話部

手話部は、毎週水曜日の放課後に活動しています。主な活動内容は、学園祭やクリスマス会での手話コーラス発表のための手話歌の練習や、手話での日常的な会話などを勉強することです。日常会話の手話を勉強していくうえで、少しでも聾（ろう）者の方とコミュニケーションをとれるようになることを目標にみんなで頑張って勉強中です。手話コーラスでは、ただ歌に合わせて手話をするだけでなく、手話の意味や曲の歌詞の意味などを理解し、感情を込めて手話表現ができるように心がけています。短大に入ってから手話を始めた初心者ばかりの部員ですが「まずは自己紹介からっ!」とみんな少しずつ手話を勉強しています。手話は素晴らしいコミュニケーション方法の一つです。私たちの手話コーラスの発表を見て、少しでも手話を知って、興味を持ってくれる方が増えてくださると嬉しいです。また発表の機会がありましたら、是非手話コーラスを見て、手話に触れて頂けたらなと思います。

主要行事（1月～3月）

1月	4日 仕事初め 5日 放射線技術科2年臨床実習（～2月25日） 19日 看護科2年保育園実習（～22日） 21日 放射線技術科3年第2回卒業試験 23日 医療保育科保育実習成果発表会 29日 一般入試前期
2月	5日 一般入試前期合格発表 放射線技術科3年第3回卒業試験 17日 介護福祉科2年卒業時共通試験 21日 第99回看護師国家試験 24日 介護福祉科卒業研究発表会 第56回臨床検査技師国家試験 25日 第62回診療放射線技師国家試験 健康診断（～26日）
3月	1日 看護科1年基礎看護学実習Ⅰ（～10日） 7日 第23回臨床工学技士国家試験 12日 一般入試後期 15日 卒業証書・学位記授与式 16日 一般入試後期合格発表 20日 第1回オープンキャンパス

第2種 放射線取扱主任者試験 合格者

（放射線技術科2年生11名）

穴見 圭佑さん　門村 恵利さん　古賀 美祐貴さん
柴田　成さん　田坂 礼那さん　鳥越 光義さん
永尾 結奈さん　三宅 知香さん　宮崎 章博さん
門田 広樹さん　門田 侑子さん

※今年度は、残念ながら第1種の合格者はいませんでした（昨年度は第1種合格者:2名、第2種合格者:5名）。今回の合格者が3年生となる来年度の試験結果が楽しみです。

[今年度の全国での試験実績]
第1種 放射線取扱主任者試験：平成21年8月19日、20日
（受験者数：3815名、合格率22.4%）
第2種 放射線取扱主任者試験：平成21年8月21日
（受験者数：2659名、合格率29.0%）

[放射線取扱主任者試験とは]
放射線取扱主任者試験は、年1回行われる国家資格試験です。試験には、第1種と第2種があり、第1種は、診療放射線技師国家試験よりも問題の難易度が高く、第2種は、同程度の問題が出題されています。合格率も低く、かなり難しい国家資格試験です。

[放射線取扱主任者とは]
放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起こらないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」をたてる必要があります。

平成22年度ＡＯ入試・特別入試・推薦入試結果

ＡＯ入試

試験日：9月26日（土）　合格発表：10月1日（木）

	看護科	介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	15	15	15	45
志願者数	67	17	22	106
志願倍率	4.5	1.1	1.5	2.4
合格者数	46	17	22	85

特別入試

（　）：社会人枠、内数　試験日：10月17日（土）　合格発表：10月23日（金）

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	介護福祉科	医療保育科	計
募集人員	35（3）	10（2）	7（2）	27（8）	10（1）	89（16）
志願者数	25（1）	33（0）	41（5）	3（0）	5（0）	107（6）
志願倍率	0.7	3.3	5.9	0.1	0.5	1.2
合格者数	23（1）	14（0）	11（1）	3（0）	5（0）	56（2）

推薦入試

試験日：11月7日（土）　合格発表：11月13日（金）

	看護科		臨床検査科		放射線技術科		介護福祉科		医療保育科		計	
	指定校	公募	指定校	公募	指定校	公募	指定校	公募	指定校	公募	指定校	公募
募集人員	35			10		10	25		27		107	
志願者数	15	22		51		52	12	2	14	1	41	128
志願倍率	1.1			5.1		5.2	0.6		0.6		1.6	
合格者数	15	17		13		14	12	2	14	1	41	47

平成 22 年度一般（前期・後期）入試日程

試験区分	願書受付期間	試験日
一般前期	平成 22 年 1 月 4 日(月)～ 1 月 22 日(金)【消印有効】	1 月 29 日(金)
一般後期	平成 22 年 2 月 22 日(月)～ 3 月 6 日(土)【消印有効】	3 月 12 日(金)

国 家 試 験 日 程

区　　分	試 験 期 日	合格者の発表
第99回　看護師国家試験	平成22年2月21日(日)	3月26日(金)　午後2時
第56回　臨床検査技師国家試験	平成22年2月24日(水)	3月31日(水)　午後2時
第62回　診療放射線技師国家試験	平成22年2月25日(木)	3月31日(水)　午後2時
第23回　臨床工学技士国家試験	平成22年3月　7日(日)	3月25日(木)　午後2時

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(67号)

2009年12月発行

編集発行：広報誌編集委員会
藤原忠昭（庶務課・委員長）
天野貴司（放射線技術科・副委員長）
名木田恵理子（一般教養）
橋本美香（一般教養）
重田崇之（一般教養）
阿部裕美（看護科）
近末久美子（臨床検査科）
河邉聡子（介護福祉科）
中井　靖（医療保育科）
重政有里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194
倉敷市松島316　川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

編集後記

今年もまた師走を迎えました。師走の意味は、平安時代の本の説明によると師の僧がお経をあげるため家々を馳せまわる月として「師馳せ(しはせ)」から生じたと言われています。この言葉を耳にすると、慌ただしく、忙しない気持ちになるから不思議です。皆様も同様ではないでしょうか。

人生にとっていくつかの区切り目があると思います。

学校での一年の区切りは卒業・入学の季節である三月と四月ですが、人にとっての区切りは、やはり一年の終わりと始まりである十二月と一月だと思います。その区切りである師走にあたり、二〇〇九年を振り返り、来るべき新しい年への決意を新たにしたいものです。

さて、この度、多くの方々のご支援とご協力をいただき、ここに広報誌「若きいのち」十二月号が発刊の運びに至りました。広報誌は大学からの情報を伝えることを目的にしているイメージが強いと思いますが、大学からの一方通行な情報だけではなく、できる限り学生や卒業生の皆さんなどからの情報も伝えていきたいと思っていますので、原稿依頼があったら奮って投稿してください。

今回は学生の皆さんが若い感性をぶつけて取り組んだ学園祭を特集しました。学園祭を通じて本学の学生・教職員だけではなく、学園他施設の学生や教職員・他大学の学生、高校生、地域の方々と共に「楽しみ、ふれあう」ことにより、新しいコミュニティを形成することができたのではないでしょうか。学生の皆さんの力により近年にない盛り上がりをみせた第三十五回学園祭が無事終了したことを大変嬉しく思っています。

おわりに、編集委員一同、今後も一層充実した紙面づくりに邁進していく所存でございますので、温かいご支援・ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（藤原 忠昭）

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。